

口から育てる食育と学校歯科保健

歯科保健領域は、人の生涯にわたって命を支える「食」を育み、摂食・嚥下に関連する「食」に関わる保健・医療支援を担当する専門領域です。近年の歯科保健を取り巻く状況を踏まえると、食物を単に栄養摂取を目的にした「食べる」だけでなく「味わって食べる」食べ方を歯科保健から支援すること、食べ方によっては命の危険が伴うことに歯科医療面から気付かせること、そして、食に伴う本来の人への効用である「味わい、寛ぎ」などを感じることで心の健康をも意識した命をつなぐ取組みを歯科全体から発信すること等が社会から求められています。

第2次食育推進基本計画は平成23年度から5年間の計画として内閣府から発出されました。この基本計画においては、「食育の推進に当たっての目標」の11項目の中に「よく噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある者についての目標値」があり、国民が健やかで豊かな生活を過ごすには、十分な口腔機能の発達、維持が必要であり、身体の栄養のみならず味わいや心のくつろぎにつながる食べ方に関心を持ってもらうことが重要である、との解説文が添えられています。また、地域における食育の推進の「歯科保健活動における食育推進」の項には、嚙ミング30（カミングサンマル）などの食べ方を目指した支援などが新たに引き上げられています。

ここでは、食べる場である口腔・咽頭の形態特徴と咀嚼・嚥下機能との関連から、五感（味覚・触覚・嗅覚・聴覚・視覚）を育てる食べ方を風味、咀嚼音などを含めて具体的に提示します。また、命の危険が伴う誤嚥窒息の防止については、窒息事故死の原因の約半数が食品を誤ってのみこむ誤嚥窒息によるものであるとの報告がされています。誤嚥窒息事故の多くは、日常の食事やおやつを食べながら引き起こされており、多くは食物が粉碎されないままに誤嚥されて窒息事故が起こっています。窒息を起こしうるヒト側のリスク度として、歯列・咬合状態に加えて嚙まずに丸飲み、吸い込み食べ、押し込み食べ、などの歯・口腔と食べ方の要因が食物要因とともに大きく関わっています。

学齢期の歯科保健においては、歯科保健関係者は、食に伴う本来の効用である「味わい、寛ぎ」などによる心の栄養摂取の支援者をも意識した命をつなぐ取組みを発信することが今後の課題とされます。

略 歴

2013.6.1 現在

向井美恵（むかい よしはる）昭和22年6月24日 生まれ

昭和48年3月 大阪歯科大学 歯学部 卒業
昭和50年10月 東京医科歯科大学歯学部文部教官助手（小児歯科学教室）
昭和56年4月 昭和大学歯学部講師（小児歯科学教室）
平成元年4月 昭和大学歯学部助教授（口腔衛生学教室）
平成9年5月 昭和大学歯学部教授（口腔衛生学教室）
平成20年4月 昭和大学口腔ケアセンターセンター長（併任）
平成25年4月 昭和大学名誉教授